

2021年 5月1日  
NPO法人 森を再生する会

## 水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

## — 目 次 —

・森から学ぶ持続可能社会	1 P
・特別寄稿	2 P
・水源の森の永久保存を目指して	3 P
・インタビュー	4 P

・会員の声	6 P
・リレートーク	7 P
・令和3年度活動計画	8 P
・寄付のお礼	8 P

## 森から学ぶ持続可能社会

神谷輝幸

## 食糧危機がやってくる

私たちは、飽食の時代といわれるように、食べるものに不自由なく暮らしています。戦中生まれの私には、夢のような時代です。あの頃は、腹がふくれば満足でした。名古屋から私たちの田舎へリュックを背負った人が農家を訪ねて米やサツマイモを買っていきました。都会では食べるものが手に入らない時代だったのです。

今、そんな時代がやってこようとしています。中東のパリといわれ贅沢な暮らしを謳歌していたレバノン・ベイルートで食料が手に入らない事態がやってきているのです。レバノンでは食料自給率が40%、輸入に頼っていましたが、2年前から国家財政が悪化し、インフレが進み、国民は食料を手に入れることができないのです。

日本も食料自給率は38%。国の借金も1000兆円を超えました。現在何不自由のない暮らしに見えますが、大きな問題を抱えています。食料をめぐる仕組みを今変えないと、世界中が食糧危機を迎えるといわれています。その起源は2030年。大きな仕組みを変えるには時間が足りません。2050年には世界の人口は100億に達します。

100億人が飢餓に陥らないようにするため、次の3つの点から食料システムを変えようとしています。

- ①食品ロスをなくする。
- ②食事を肉食から植物性の食べものにシフトする。

③生産方法を変える。

皆さんならどのように変えるとよいと考えますか？

## 不耕起栽培を森から学んだガーナ

アメリカ、オーストラリアなどで行われている大型農業は、やがて行き詰ります。ガーナでは小規模農業のみちを歩んでいます。さらに、化学肥料や農薬を使わない不耕起自然栽培を行い、国土を守り、豊かな実りを得ています。この農法は森から学んだといいます。本物の自然の森は人間が余分な手を入れなくとも生態系豊かで生物多様性に満ちています。これこそ持続可能な農業の在り方です。

森を再生する会が、宮脇昭先生の理論による、潜在自然植生を重視した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」をしていることの重要性が遠いアフリカの国で再認識されてきた思いです。

# 特別寄稿

## 森を再生する会総会に寄せて 一憲政の神様も木を植えた

衆議院議員 大西健介

特定非営利活動法人森を再生する会の総会のご開催を心よりお喜び申し上げます。長引くコロナ禍の下でのご活躍はご苦勞も多いと思いますが、皆様の水源の森を守ろう！取り戻そう！という熱い思いと努力に心より敬意を表します。

さて、温室効果ガスの排出削減や災害防止のため、2019年度より、森林整備に充てる森林環境税が導入されました。

ところが、森林環境贈与税の配分基準には、私有林人口面積や林業就労者の数だけではなく、人口割が加味されるため、例えば、私有林人口林面積がゼロの東京都世田谷区にも約1710万円が配分されることになっています。

そこで、広大な森林を抱える地方からは、配分基準の見直しを求める声が上がっています。確かに、人口割の見直しも必要だと考えますが、森林のない都市部であっても用途を工夫することで森林整備に寄与することも可能ではないかと考えます。

国産材を公共施設の建築に使用することなどはすでに多くの自治体で行われていますが、もっとストレートな貢献の仕方として、水源林を購入する財源として森林環境贈与税をあててはどうだろうか。以前、林野庁に確認しましたが、問題ないという見解でした。

この点、私は、森を再生する会が矢作川の水源林を購入する取り組みを続けていることは大変意義深いことだと思っています。安城市は、山のない自治体ですが、明治用水によって発展したまちです。その明治用水は、「水を使う者は自ら水をつくれ」という岡田菊次郎翁の言葉に従い、水源林を保有・管理しています。安城市は、森林環

境贈与税を水源林の購入・管理に積極的に使用すべきと考えます。

水源林を保有・管理することで、見学ツアーや間伐ボランティアを通じて、水源地との交流を行うなど、市民や子どもたちに、水や自然の大切さを考える機会を提供することもできます。

実は、自治体が他の自治体にある水源林を保有・管理すること自体は新しいことでも奇異な発想でもありません。「憲政の神様」と呼ばれる尾崎幸雄翁は、新たに水源を確保するために、長期的な水源林の涵養を思い立ち、1906年、多摩川水源林の調査に着手し、東京市（当時）は水源林経営に乗り出しました。現在も、東京都は、奥多摩町、山梨県の小菅村、丹波山村及び甲州市にまたがる約24000haの水道水源林を保有・管理しています。

100年以上前に先人が行ったことに学び、私たちは、100年後の子孫たちのために木を植えることを考えるべきだと思います。

平子恵美（一般財団法人日本熊森協会愛知県支部長）

## ナショナル・トラストとは

ナショナル・トラスト運動は、自然環境などを無理な開発により環境破壊から守るため、市民活動等によって買い取ったり、自治体に買い上げと保全を求めたりする活動のことを言います。

歴史は古く、1895年にイギリスで設立されたボランティア団体「ナショナル・トラスト」によって行われた活動を原型として世界中に広がりました。

日本でも各地で自然を守るためのトラスト活動は行われています。公益財団法人奥山保全トラストは、日本熊森協会の姉妹団体として2006年に設立されました。

かつて日本の奥山には多種多様な生物にあふれた鬱蒼とした森が広がっていました。私達の祖先が「奥山」として大切に守ってきたその森は、戦後数十年の間に、開発やスギ・ヒノキの拡大造林のためにその多くが失われてしまいました。

奥山保全トラストは、「多種多様な生物からなる奥山水源域の天然林が開発されることのないよう、市民が寄付を出し合い買い取り、保全する」というトラスト運動を目的として、水源の森のナショナル・トラスト、そして野生動植物の調査や保全活動を行っています。

現在の総購入面積は2346ha。全国に19か所のトラスト地があります。

## 愛知県初のトラスト地

2020年9月、愛知県初のトラスト地を、北設楽郡東栄町に56.68ha取得することができました。

東栄町は愛知県の北東部に位置し、700年続く「花祭」と呼ばれる霜月神楽の伝統芸能が残る自然と文化が豊かな町です。購入した山地は天竜川の源流域にあります。

私が日本熊森協会の愛知県支部長に就任してからようやく1年が経ちました。最初から県内にフィールドを持ちたいと思っていましたので、積極的に山間部に足を運び、熊森の活動とトラストの活動の説明をしながら少しずつ地元の方との繋がりを作ってきました。その中で知り合った方が今回の山の情報をくださいました。

トラスト地として私達が取得させていただいた場所は、以前、電力会社が購入する計画もあったのだそうです。紆余曲折を経て私達のところにご縁が舞い込んできたことは本当に運が良かったと思っています。

9月に購入が正式に決まり、10月2日に愛知県庁で記者会見を行い、朝日新聞さんに記事を書いてもらうこともできました。11月末に、初めて支部の皆さんとトラスト地の見学会を兼ねて山の作業をしてきました。

現地は自然林が約60%、人工林・地肌露出地帯が各5%ずつで、残り約20%の皆伐跡地には元の山主さん時代に、森林組合さんの研修のため4200本の広葉樹が植樹されており、天然更新も始まっていました。

今回は、植樹された際に取り付けられた防護ネット外しを行いました。8年たって成長した木がネットに食い込み始めていたので、このままでは育っていきません。ただ、急斜面に植えられたネットを外すのは至難の業。今まで2回現地で作業をしましたが、人海戦術で外せたネットは254本。先は長いですが、できるところは自分たちで、もちろんプロの力も借りながら、作業を通じて山の様子を知っていると思っています。

また、東栄町とご縁ができたことで、住民の方々と仲良くさせていただく機会が増えました。東栄町役場をご訪問させていただき、町長、副町長、市議の方々にご挨拶をさせていただくこともできました。今後は山間部と都市部を繋いでいくこともやっていきながら、地元の方にも喜んでいただけるようなお付き合いができれば、と思っています。

愛知県は66%が人工林で、全国3位。残念ながらクマが棲める多様性豊かな森はほとんど残されていません。

皆さんのお力を借りて、少しでも愛知県に生態系豊かな森を再生するお手伝いができたら、と思っています。

## 会員最高年齢・銀太郎さんへインタビュー

(聞き手：松永純一)

古井銀太郎さんは現在91歳。今でも、私たちと一緒に山の間伐作業に行かれる。今回は、山への想いと、いつまでも元気な秘訣の一端をお聞き致しました。

### 古井銀太郎さんの紹介

昭和5年北設楽郡田口町で生まれ、富山村で20歳まで生活。若い時の職業は山仕事中心で、主に薪を作って生計を立てていたそうです。父親は、熟練の炭焼きさんで

指導的な立場で活躍された方です。

昭和29年に安城市大山町（秋葉公園の近く）に引っ越して、67年になる。家の近くには秋葉公園があり、カエデ、アベマキ、アラカシ、ヤマモモ等約50種類の樹木があり、森の公園都市として、安城の誇りだと思っています。

### 入会のきっかけ

布草履を安城学園の学生に教えていた時、坂田校長先生から、森を再生する会をたちあげるので参加しませんかと誘われてすぐ入会しました。

植樹活動は段戸の西川から始まり、イベント時は当時毎回盛大に行われていたのが懐かしく思っています。いつの日か、観察会等の機会があれば最初に植えた、栃の木に感謝の気持ちを込めてがちり握手したい想いです。

### 今は年相応に

私は道（林道）の草刈りを主に担当しており、草刈りは得意ですが山、田畑の草刈りと違うのは岩石や石ころ等障害物が非常に多く、相当注意をして作業を行っています。その為能率が悪く思うように事が出来ていません。

### 現在の納庫の山のアクセスについて

道中（林道）の道が悪くがけ崩れしそうな危険なところもあり運転する人は大変だと思う。町役場が定期的に巡回して補修していただければ有難い。

### どんな山になったらいいか

納庫の山も立木を大胆に伐採して、雑木林中心の水源の森にして永久保存した山がいいと思うが、しかしほんの少し高級材の候補の杉があります。（5本～10本くらい）これは将来も代々育成し、水源の森と合わせて宝の森にもなればいいと思っている。春には新緑、秋には紅葉と気高き杉・桧の樹と調和のとれた美しい森になればと願っています。

実は、10年くらい前に木曽の原生林を見に行ったことがあります。うっそうとした雑木林の中にポツン、ポツンとヒノキの大木が育ち水源の森となっていました。規模こそ違えその光景は本会が目指す方針と合致するもので感慨深く見て参りました。

現在国内には杉、ヒノキ等豊富な立木があります。売れない状況が続く中で質の良い高級材は売れているようです。そんな中、以前所要で奥三河設楽町を訪問した際、次のような話を聞きました。設楽町の県道257号線から山道を3Kほど入った山で、戦後杉を植樹した山の持ち主が木を売ろうとしたが道路までの搬送に莫大な費用がかかりほとんど金にならない為、売却を中止した。ところが山の尾根に代々残した10本程の杉の巨木が残っており、質の良い高級材と分かり高額で売却したとのこと。搬送は材質保護の為、傷がつかないように、ヘリコプターで土場（トラックに積む集材所）まで搬送した。（ヘリを使っても採算がとれた）。

私も小さい山をもっていて奥深いところで環境がよく似ている。将来参考にしたいと思っている。

### 健康の秘訣は？

基本3食で、塩分控えめの食事をする。好きな食べ物は、魚類（特にイワシ・アジ

の干し物は好物・肉、鳥のから揚げも好んで食す。) 手作りゴーヤの佃煮(冷凍して年間を通じて毎朝食べる) また、ゴーヤ、桃、ハチミツをミックスしたジュースを作る。

(夏場の健康に良く、冷凍保存して7月～10月まで毎朝飲む) 又、間食はしないが、甘いお菓子は何でも食べ、時には辛いものも食べる。

### 趣味(運動)は?

毎日の散歩(ウォーキング時は秋葉公園を3～5周を週2程度歩く)・野菜づくり  
登山をグループ10人程度で毎月3～4回行く。(三ヶ根山、茶臼山、猿投山など1000メートル前後の山)。

いろいろとお話をお聞きいたしました。まだまだ、生き生きとされたお姿から100歳までは元気で山に参加されると感じました。古井銀太郎さんありがとうございました。

---

## 会員の声

### 森を再生する会に参加して

加藤由紀子

3月中旬より毎朝、我が家の庭に鶯が鳴く練習に来ています。その成長を楽しむとともに心を和ませてくれています。草取り、剪定等、手入れは大変ですが酸素の恩恵と緑の癒しを頂けます。

“森を再生”とは?から入会して20年、段戸山、作手、納庫、の山々へ行き暗い森の針葉樹を間伐して広葉樹を植樹する。日差しが入る豊かな森へ再生する。その根本は、私達の未来の人々への贈り物、水源の森の保持です。

作業日は森林浴を一杯浴びて、ほどよい疲れの帰宅。でも皆と一緒に笑い達成感があり心は、ほっこりです。

植樹祭、観察会に家族も参加させてもらい、太っている主人が段差で「おーい手を引っ張ってくれ」と無理を言いご迷惑をかけた事、孫の頭に蜂が刺しバタバタした事、現状の森の講演又豚汁、猪汁、五平餅等美味しかったです。

植樹した苗木が食害にあい全滅した木々、高齢化による作業力低下等、次々と難問は発生しますがくじけずに吉野先生、熊森教会の皆さんとも協力して森を守りたいと思います。

コロナウイルスが蔓延して1年、人と人との繋がりが薄くなりつつあります。今出来る事を1つずつそして未来の為に協力しあいましょう。

マザーテレサの言葉

あなたの中の最良のものを世に与えなさい。けり返されるかもしれませんが、でも気にすることなく最良のものを与え続けなさい。

# リレートーク

汐満健一さんのつぶやきに他の会員の方がリレーしてくれました。

●この原稿を書いている3月は、過去の植林政策の誤りを怒りとともに実感する季節です。

ヘクション！駄文ですみません。—汐満健一

●昭和 32 年から始まった拡大造林政策のことですよ。

スギ・ヒノキの放置林はそのころ植えられたものですね。今や手遅れ！病気になりそう。

アーメン。—神谷輝幸

●先日、久々に千年の森に行ってきました。緑が芽吹き、ウグイスが鳴きはじめ清々しい一日を過ごしました。やっぱり広葉樹の森は最高。皆さんも一度訪ねてみてはいかがですか。

ヤッホー！—松永純一

●間伐をしっかりとやって、広葉樹と針葉樹が混ざった森になっていればネー！早く気が付いて実行した伊勢神宮はえらい！—古井銀太郎

●行政の人、山を見なくて、森林環境税が正しく使われますかねえー。見てますよー。

山は荒れて、手遅れなんですけど。山崩れが起きても知りませんよ。—平岩かず子

●森の大切さを知って行動する人が増えれば行政も動くかも??????—都築トヨ

●最近よく耳にする SDGs、森に入って活動することですよ。—鈴木まり子

チャレンジ！



## スケッパーを間伐材で作ってみました！

軽く、手にフィットし、木の良さが感じられますよ！

定番の使い方は、生地分割。生地離れが良い。スパッと！生地への衝撃もソフトになります

♪

エコきち「イチゴ大福講座」で使って好評でした。

エコきち10周年イベントでは、ヒノキの間伐材でコースターを作りました。

会員の田中正夫様が、エコきちの木のおもちゃの部品を制作してくれました。

間伐材を役立てています。



## 令和3年度 水源の森づくり活動計画

- ①5月23（日） 下草刈り（作手小河さんの山）
- ②6月5日（土） 下草刈り（作手小河さんの山）
- ③6月6日（日） 植樹（作手小河さんの山）
- ④7月25日（日） 「面の木峠」自然観察会（設楽町）
- ⑤8月7日（土） 巻き枯らし間伐（納庫水源の森）
- ⑥9月26日（日） 間伐（納庫水源の森）
- ⑦10月24日（日） 植樹&獣害防止ネット設置  
（納庫水源の森）
- ⑧11月28日（日） 間伐（納庫水源の森）

※集合8:00、歴史博物館駐車場  
④のマイクロバスはJA安祥支店

※コロナウイルスの状況で、計画が変更になる場合があります。

※出発時健康チェックを実施します。

☆令和元年度 NPO森を再生する会へ寄付をいただいた方☆

遠山松枝様、平子恵美様、小島祥次様、中嶋恭士様

※山を購入する資金として積み立ててまいります。ありがとうございました。

**訃 報** 会員の神谷 守様、稲垣博一様が逝去されました。会の発展のために、御尽力戴きましたお二人に厚く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。